

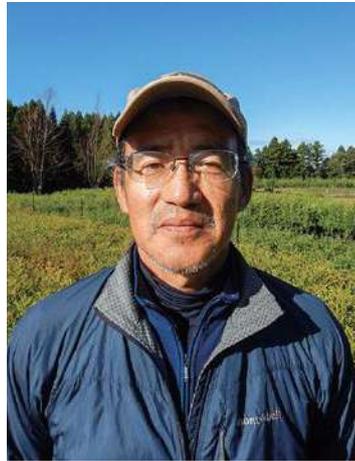
とやま 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

新川森林組合 育苗班

熊野 聡さん

今回ご紹介するのは、富山県魚津採種園の苗畑で、優良無花粉スギ「立山森の輝き」の苗木生産を担当する新川森林組合の熊野さんです。



くまの さとし 熊野 聡さん

1 山から畑へ 人事異動は突然に

熊野さんは、新川森林組合が県魚津採種園の苗畑で「立山森の輝き」の生産に取り組むスタート時から担当されており、今年でちょうど10年目を迎えられました。今でこそ、熊野さんII苗畑のイメージが定着していますが、苗畑担当になるまでは、森林組合の作業班員として造林作業に従事していました。山での仕事に充実感を感じていた頃に突如として苗畑担当を命じられ、仕事でもプライベートでも農作業の経験がなかったことから、「なぜ自分が？」ととても困惑したとのことでした。

2 苗畑での業務

スタート時は畑もなく、畑を造成するところからやらなければいけませんでした。一方で、トラクターでの耕し方すらわからない熊野さん。苗畑も熊野さんも、文字どおりゼロからのスタートだったようです。慣れない作業に苦労されましたが、徐々に整備が進み、自分の作業次第で苗畑がどんどんきれいになっていくのは楽しかったと当時の思い出を笑顔で話されました。現在も、丁寧な草刈りと剪定にこだわり、きれいさが保たれるよう心がけておられます。「立山森の輝き」の苗木生産は作業方法が確立しておらず、毎年少しずつ新しい作業を行ってきたため、10年目と言っても自分は、まだまだ未熟だとおっしゃられます。各地の、何十年も要する森林づくりの「原点」を作っていると思うとやりがいがある。一本でも多くの苗木を現場で活用してもらえようように、苗木に異常が現れる前から、先回りした対応が取れるようになりたいと抱負も話してくださいました。



出荷前の選苗作業中

3 無花粉スギの生産現場は花粉地獄

熊野さんは、スギ花粉症ではないそうですが、そろそろ危ないと感じておられます。理由を伺ったところ、実生苗の生産は、締め切ったハウス内で人工授粉をしたり、雄花を叩いて無花粉スギと有花粉スギを選別したりと、大量の花粉を吸わざるを得ない「花粉地獄」だからだそうです。無花粉スギを作る過程が「花粉地獄」と表現されることが実に意外でした。「実生苗から挿し木苗にシフトすれば、花粉地獄も終わる」と、生産担当ならではの理由で挿し木苗に期待を寄せておられる熊野さん。益々のご活躍を祈念いたします。

文責 新川農林振興センター 林政・普及班